

# SORA

web magazine 2018.feb. vol.95



# South Andaman Cruise

Travel



パワラ号で行く

## 南アンダマンクルーズ!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

アンダマン海といえば、シミラン諸島をはじめ、リチェリユーロック、コボン、コタチャイがダイビングポイントしてはとも有名。では南アンダマンは？くらいにあまり聞きなれないエリアだと思うが、以前、映画「ビーチ」の撮影地となったピビ島周辺や、コハー、ヒンデン・ヒムムアンなどカラフルなソフトコーラルが群棲する大きな根を周遊するポイントが揃い、マンタなどの大物も期待ができる。今回は、揺れに強いと定番の大きなパワラ号に乗って、南アンダマンを潜って来た!



tsumi-shima tsumishima.com  
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ  
www.wtp.co.jp

© 2018  
World Tour Planners Co.,Ltd.  
All Rights Reserved.

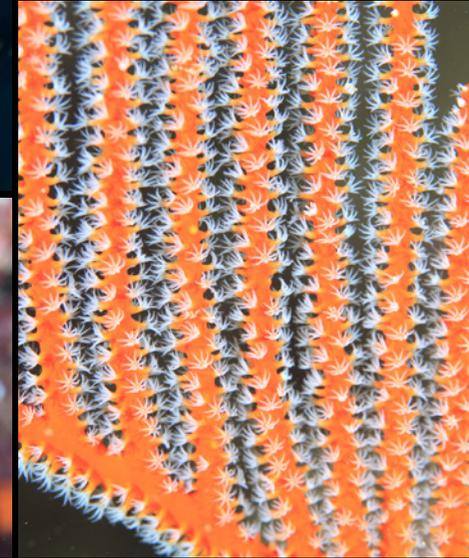


# チャロン港を出て、南に3時間 五つの島からなるピピ諸島!

エントリー後、透明度もあまり良くないと、チェックダイブということで、それほど生き物は期待できないかな? なんて思うことがあると思う。実際、このピピレイでのファーストダイブは、最初そうかな? と思ったけど、ガイドさんがカメを教えてくれた辺りから、ぐんぐんこのポイントの面白さを知る。まずカメが私たちダイバーを気にしない。2匹会ったけど、2匹とも食事に夢中で顔先までレンズを向けても気にしない。1匹なんて、可愛いミナミハコフグを撮影している時に、大胆にも私のすぐ頭の上を通過した…… (笑)。地形的に面白く、水面上に現れる険しい断崖絶壁の下はオーバーハングになっていて、入り込む波が崩れ、その下には、オレンジ色の可愛いソフトコーラルが群棲していた。驚く景色の連続ではないけれど、南アンダマンという違う海に来た印象はしっかりと与えてくれた。

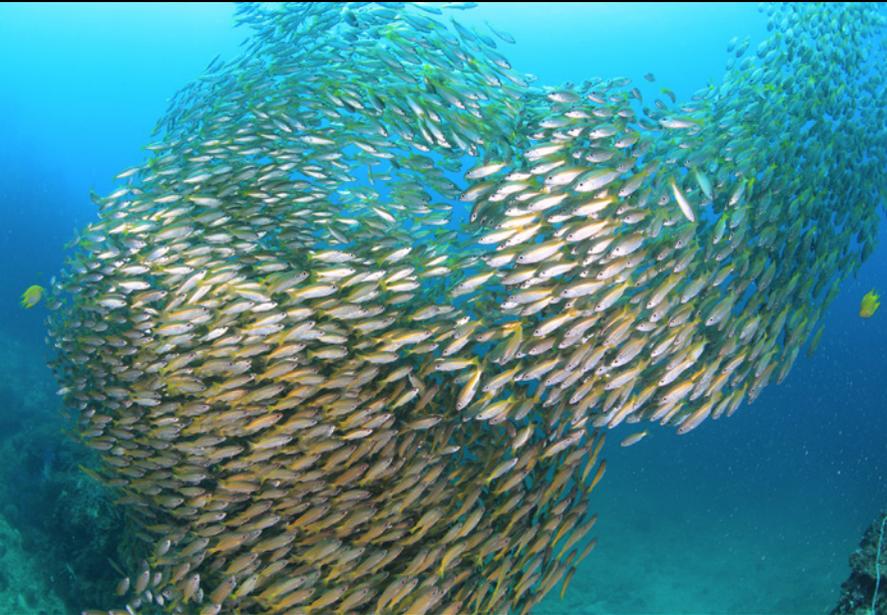


**South  
Andaman  
Cruise**  
南アンダマン  
クルーズ *Travel*



# South Andaman Cruise

南アンダマンクルーズ *Travel*



## 初日の2ダイブ目は、ビダノックにエントリー!

少し移動した場所にある、大きく切り立った2つの印象的な岩の周囲で潜る。ポイントの名前はビダノックとビダナイで、今回は背の低い方のビダノックで潜る。島の南側でエントリーして、少し湾のようになっている海底を回る。ここでブラックチップシャークなどを目撃。嬉しかったのは、ダイヤ型のツバメウオの仲間が群れていたこと。初めての光景だった。そして、西側に進んでいくと、大きなセンフエダイの群れに遭遇。ダイバーが様々な角度からこの群れの中に飲み込まれていく。ブリーフィングでも言われていたが、それは壁のようであり、雲のようであり、そして私は運河のように撮影した。

一通り撮影を終えて、西側を進んでいくと、メインの壁沿い、または少し離れた場所でも大きなセンフエダイの群れがまとまっている。他のダイバーも少なく、ずっと眺めていると、その群れは、龍のように水面に向かっていくかと思えば、後続のお魚がまるで前を行くお魚たちを飲み込んでいくように群れの形を変形させていく。それはもう本当に圧巻の世界だった。ガイドさんにいつもこんなにお魚が多いのか?と聞いたところ、最近特に増えてきたとのこと。あまり知られていないポイントなのでどうなんだろう……と思っていたが、大満足のポイントだった。



## 3ダイブ目は3時間移動して、コハーへ

一番有名なポイントはコハーヤイで、大きな入り口が2つある、大きなケーブを楽しむことができる。水面に映る青い模様、入り口から漏れる青い光、中で泳ぐお魚たちがシルエットになって浮かび上がる。他のダイバーが入ってくるのを俯瞰してみていると、宇宙映画のワンシーンのようにあり、ちょっとした冒険をしている気分にもなる。そのケーブ内で浮上するとそこはエアードーム状になっていて、また違った世界観が楽しめる。感じとしては青の洞窟にひょっこり顔を出す感じ。外からの波がかすかな隙間を通じて侵入してくると、エアードーム内は小さな霧が舞い、視覚は少し不良になるが、また青い世界に包まれる。ケーブの外では、タイガーテールシーホースや可愛いウミウシ、クラゲなどマクロの生き物も楽しむことができた。

そして、4本目はナイトダイビング。潮の流れが少ないポイントにエントリー。壁は、黄色いイソバナが咲き、ライトを当てると赤いカイメンも鮮やかで、日中に潜っているよりもより色鮮やかな世界が浮かび上がる。マクロの生き物がメインで、カイメンでデコレートされたカニの仲間やエビなどの甲殻類をガイドさんが教えてくれる。少し浅瀬の海域では、大小様々なブダイの寝姿やユメウメイロ、ヤマバキスズメダイを間近でじっくり観察できて、楽しい1ダイブとなった。

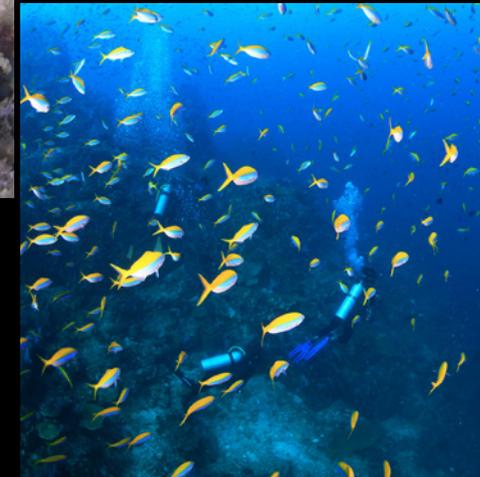
South  
Andaman  
Cruise  
南アンダマン  
クルーズ *Travel*



# South Andaman Cruise

南アンダマン  
クルーズ

## Travel



## またまた3時間移動して、人気のヒンムアンへ！

2日目は移動して、ヒンデン、ヒンムアンへ。南アンダマンの海域でも大物が期待出来るエリアに到着。まずは、小さな山脈のような根が連立するヒンデン。真っ赤なソフトコーラルが根を覆い、スズメダイが乱舞する。外洋側では、イエローバックフジューラの群れが舞い、手前は幼魚、奥は成魚の2重奏。時折、カスマアジが捕食に襲いかかると、群れは、まるで流星群のように素早く移動する。青い海に黄色い生命体が躍動する。隣に位置するヒンデンも同じく隠れ根で、水面から根の先の岩が見えている。海中の景色はヒンムアンとよく似ていて、赤いソフトコーラルが根を覆う。同じように様々なリーフフィッシュが泳ぎ、海中はとても賑やか。潮当たりの良い場所では、ツバメウオやバラクーダの群れが見られた。ヒンムアンは、水底からマンタの群れが上がってくる様子などが目撃されている。ヒンデンには、クリーニングステーションがあり、そこでもマンタの目撃例が。前回取材時の2007年は、アンダマン海全域でマンタが不調で、今回も残念ながら会うことができなかったが、それでも、どこに潜っていても、大小様々な生き物の群れが視野の中にあるヒンデン、ヒンムアンの海中景色は、贅沢そのものだった。





South  
Andaman  
Cruise  
南アンダマン  
クルーズ  
Travel



# 「死んだ妖精がいそうな感じ……」なの????

2日目の4本目は、移動して、コハーヌアへ。まずは、水深 20m ほどの海底に生えているソフトコーラルが特徴的。幻想的で、雰囲気は決して明るいわけではないが、ガイドのみほさん曰く「死んだ妖精がいそうな感じ……」だと教えてくれた。面白くて、なかなかの確な表現をするな……と感心してしまう。確かに、赤いソフトコーラルが優占する南アンダマンの海底で、白い大きなブロッコリーのようなソフトコーラルの森はなかなか不思議な世界。そして、ハイライトはチムニーと呼ばれる縦穴。水深 16m から 6m までの縦穴がある。中には、ハタンボなどが群れて、シルエットも美しい。日中は太陽が差し込み、地形と光を楽しむことができる。

tsumi-shima  
ダイバーの夢をつみあげていく





## こんな魚影の濃い沈船ポイントってあり？

3日目の最終日は、キングクルーザーへ。水底 33m に鎮座している日本の船。1997年5月4日に、保険金を狙った見せかけ事故として沈没したと言われている。なので、死者はなし。昔、日本では、阪神-淡路島を結んでいたタコフェリー（タコの絵が描いてあったので、そう呼ばれていた）が、タイに渡ってからは、ピビ島とブーケットを往来する船に。全長 85m 全幅 25m。年々朽ちていき、毎年1m づつ船のトップの震度が深くなっていると言われている。10年前にはなかったソフトコーラルが、ここ2、3年前から群棲。また、魚群もすごくキンセンフエダイ、台湾カマス、ピックハドルバラクーダ、マブタシマアジなどが視界を埋め尽くすほど群れている。



# 最終ダイブである2本目は シャークポイントへ!

シャークポイントというネーミングだが、最近では、「ノーシャークポイント」と呼ばれている（同じくガイドみほさん談）。以前は、トラフザメが多く見られ、雨期（日本の夏に当たる）には、トラフザメの交尾なども観察されたとのこと。砂地に大きな根が二つあり、その周囲をキンセンブエダイなどが彩る。このポイントの最も美しいと思われるところは、水深5mの根の上のソフトコーラル群。太陽の光で再現された赤いソフトコーラルが、目に飛び込んでくる。根の浅瀬には、セジロクマノミがたくさん群棲しているので、それを絡めて写真を撮ると、これまでに見たことのない色で表現できる海が広がっていることに気づく。マクロの生き物もタイガーテールシーホース、ニシクフライ、トマトアネモネフィッシュなどが見つかる。



**South  
Andaman  
Cruise**  
南アンダマン  
クルーズ *Travel*



tsumi-shima  
ダイバーの夢をつみあげていく





# South Andaman Cruise

南アンダマンクルーズ Travel

## ほうぼう屋

サムイ、プーケット、シミラン、タオの4拠点に店舗を構える人気のダイビングサービス（ダイブクルーズはシミランのみ催行）。今年で、20年目を迎える日本人経営のダイビングセンターで、充実したサービスを継続中！ ゲストのスケジュールや予算に合わせて、クルーズをアレンジしたり、他にも様々なカテゴリーのサービスを用意している。シミラン、コボンへのトリップは日帰りから数日のクルーズを用意。それらのすべては日本人スタッフが丁寧にケアしてくる。



## 揺れに強いと評判のパワラ号×ホスピタリティ溢れる人気のほうぼう屋

パワラ号は、アンダマン海を航海するダイビングクルーズ船の中では大きい方で、全長35m。揺れに強いと定評がある。客室は定員が24名で、「マスター」「デラックス」「スタンダード」などのカテゴリーがある。客室は全室トイレ&シャワーがある。4階になっていて、屋上は半屋外のサンデッキ、3階には、風の通る快適な多目的スペースとエアコンサルーンがある。2階はダイブデッキと客室、1階も客室となる。食事は毎回楽しみで、とても美味しい。船のオーナーが畑を持っているので、生野菜などのサラダが充実。また、オーナーの息子夫婦がケーキ職人でレアチーズケーキなどのスイーツまで自慢。ナイトロックスは無料。

